
コロ

0 . 5 %

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

コロ

【Nコード】

N2119S

【作者名】

0.5%

【あらすじ】

犬のコロは、拾ってからすぐに死んだ。

私は、声が囁れるまで泣いた。

大好きだった犬のコロが死んじゃった。

原因は、病気だった。コロは、ガンだった。それも末期で、もう直す術も無かった。まだとっても小さいのに、早死にした。

コロが病気だつてことがわかったのは、私が小学校六年生のときだった。ご飯を食べていたコロが急に倒れた。びっくりして、びっくりして。お母さんとお兄ちゃん、お父さんと、家族全員で病院に行つた。それで、コロがガンだつてわかつた。お医者さんは、あと一年、もたないかもしれないと言つた。

私は、泣いた。わあわあと、声を上げて。お母さんも泣いたし、お父さんもお兄ちゃんも泣いた。

コロは、捨て犬だった。ガンがわかる数週間前に、私が拾つてきた犬だった。ダンボールに入っていたコロは、生まれて数日の赤ちゃんだつた。

人間は、自分勝手だ。自分の都合で、動物を捨てたり、殺したりする。私は、人間に生まれてきたのがすごい嫌だつたけど、その日の出来事が、私のその思いを更に強くした。だから、私は人間が嫌いだ。いや、他人が嫌いとかじゃない。人類、全員が嫌いなのだ。それには、もちろん私も含まれるから、私は、私自身も大嫌いだ。

コロは、最初、全然懐いてくれなかつた。それは、人間に捨てられたからだろう。怖いに決まつてる。でも毎日、コロと過ごしていくと、コロは、しだいに心を開いてくれた。

なのに、数日後には、悲惨なことが起こつた。

私は「どうして」と、言い続けた。

「どうしてコロなの！？ 生まれたばかりの子犬には、何も罪はないのに！ どうしてコロなのよ！？」

ずっと、ずっと、そう叫んだ。

叫んで、叫んで。私の声は、噎れて出なくなつた。それでも、出

ない声を絞り出して叫び続けた。

コロには、薬を飲ませなかった。なぜなら、副作用でコロの毛は抜けていくから。副作用で、コロは衰弱していくから。体に負担がかかるから。だから、薬はもらわなかった。それが、コロにとっても、私たちにとっても、一番幸せなことだと思っただから。

コロは、最初のうちは元気だったけど、日が過ぎていくにつれて、どンドン、どンドン、弱っていった。

鳴かなくなった。

歩かなくなった。

それが悲しくて、悲しくて、悲しくて。

でも、どうやってもコロの病気は直らない。

私は、毎日泣いた。

学校へ行っても、考えるのはコロのことばかりで、授業に集中できなかった。先生に怒られたけど、そんなことはどうでもよかった。

学校から帰ってくると、コロは、リビングで私を待っていた。立ってはいないけれど、尻尾を振って、嬉しそうに。

その姿を見るのが、嬉しいような、辛いような。複雑な気分だった。

コロを撫でてやると、気持ち良さそうな顔をした。

その顔を見るのが幸せで、そのときだけは、コロが死ぬなんてことを忘れることができた。

でも、やっぱりコロは病気なんだ。

神様は、なんて残酷なのだろう。

コロの病気は、急速に進んでいった。
尻尾も足も、何も動かさなくなつて、寝たままになつた。
そんな姿を、私が直視できるわけがなくて、私は、コロを見ない
ようになっていた。

見ないように 見ないように

そんなことをして、私は、大きな不安感に苛まれた。
こんなことを続けていたら、私は、コロのことを忘れてしまわな
いだろうか。

こんなことを続けていたら、コロは、私のことを忘れてしまわな
いだろうか。

そう思った日から、私は、コロの横にいるようになった。
少しでも、コロと長く一緒にいられるように。
寝るのも、一緒だった。

そして、今日の朝。

コロは、私の横を息をしなくなっていた。

死んでしまつたんだ。

私は、また、泣いた。

たぶん、今までで一番。

いつか命に終わりがくるのは知っていた。

それは、コロにも私にもあること。

でも、コロの終わりは、あまりにも呆気なくて。
それが一番、悲しかった。

リビングの隅ある、犬用ベッド。

振り向いても、もう、そのベッドを使っていた主はいない。
それが悲しくなるけど、泣いてばかりはいられないんだ。
もし、この声が届いているなら。否。届いていなくてもいいの。
だから、言わせて。

また私のところに戻ってきてね

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2119s/>

コロ

2011年6月9日12時35分発行